

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和7年3月24日

提出区分	実績	整理番号	8	課題区分	C
横断的な課題	木曾らしさを活かした観光振興				
地域重点政策	木曾らしさを活かした観光振興				
実施機関	木曾地域振興局				
事業名	木曾地域広域観光推進事業	担当課	所属	木曾地域振興局 商工観光課	
			電話	0264-25-2228	
			E-mail	kisochi-shokan@pref.nagano.lg.jp	
事業の概要	目的 (目指す姿)	観光需要を地域経済に取り込み、持続可能な地域づくりを推進するため、広域観光を推進して通過型観光から滞在型観光地への転換を図る。インバウンド講演会をキックオフとし、地域の観光関係者が一堂に会して広域的な課題を共有し、地域の広域観光を推進するためのアクションプランを作成するとともに、広域観光を担う人材育成を図る。			
	現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> 木曾地域の観光は日帰りが多く、平均泊数、消費額が少ない通過型であり、観光需要を地域経済に取り込めていない。 滞在時間の延長につながるようなコンテンツがないわけではないが、プロモーションが主に町村単位で行われ、発信力が小さいため、地域のなかでコンテンツを周遊してもらい、長い時間滞在してもらうような仕組みができていない。 広域的な情報発信については、コロナ禍等により事業規模が縮小されており、観光客のニーズ把握や、ターゲットを明確にしたマーケティングが十分にできていない。 			
概要	内容 (変更後の内容)	<p>(1) 木曾地域観光政策研究会(6月、8月、10月、1月、2月) グループディスカッションを通して、木曾地域が広域的に連携して取り組むべき課題を洗い出し、目指すビジョンを描くとともに、それを具体的に推進するためのアクションプランを作成するとともに、広域観光を担う人材育成を図ることを目指し開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 当初予定では外部講師を依頼し、全体の方向性についてアドバイスをいただきながら進めることを予定していたが、広域連携推進費を活用した広域観光の具体的な事業化といった話があったため、外部講師に代わって企画振興課の広域連携推進幹に依頼し、広域連携推進費の活用や、具体的な事業化について説明・アドバイスをいただいた。また、木曾路の歩行ルート整備や体制等、会員の取組や次年度の広域的な観光の取組等についての情報を共有した。(6月・8月・10月開催) 全体の方向性としては、木曾路を通じて安心・安全に歩くということをテーマに、ソフト・ハード両面から統一的な案内等の整備をしていくという形で考えており、木曾路と「歩く旅」という点で共通点がある日本ロングトレイル協会関係者をお呼びして講演していただき、木曾地域におけるこれまでの中山道歩きをトレイルの概念を参考にしながらブラッシュアップするとともに、来年度に向けた取組についてアドバイスをいただいた。(1月開催:財源:推進費) 各町村が考える広域観光の将来像や課題等を整理したうえで、観光庁事業に精通した専門家による講演やファシリテートによるディスカッションを通じて、広域観光のメリットや木曾地域が広域的に連携して取り組むべき課題等を洗い出した。(1月開催、財源:推進費) 木曾路を通じて安心・安全に歩くということをテーマに沿い、木曾路歩行ルートや訪日客向けツアー造成・催行に精通した専門家目線での、歩行ルートの課題や提案等について講演をいただいた。(2月開催) 火山活動が高まる御嶽山を擁する当地域の現状を踏まえ、専門家を招聘し火山防災や観光施設等を中心とした風評被害対応等のリスクコミュニケーションについて講演・アドバイスをいただいた。(2月開催、財源:推進費) <p>ア 会員: 町村・広域連合観光担当者、木曾観光連盟、木曾おんたけ観光局(DMO)、町村観光協会</p> <p>イ 検討事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 各町村の取組状況の共有(補助事業等) 木曾地域が広域的に連携して取り組む共通テーマの明確化(絞り込み) 目指すべき方向性(ビジョン)の明確化、ターゲット(地域、年齢層)の設定 事業計画の検討(組織体制、人材育成、ハード整備等) 御嶽山噴火警戒レベル上昇時の観光面における対応 <p>(2) インバウンド講演会(6月18日) インバウンドツアーを運営する事業者の視点を通して、木曾地域の観光事業者が、現状とトレンドを把握するとともに、選ばれる観光地となるために必要な対策を考える機会を提供した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日時: 令和6年6月18日(火)午後1時15分から 場所: 木曾町文化交流センター 多目的ホール 講師: ポール・クリスティ氏(ウォーク・ジャパンCEO) 対象: 観光関係者(町村、商工会、観光協会等)、住民 内容: 「インバウンドの現状と今後の動向」～旅行者の期待に応える、満足度の高い地域となるためには何が必要か <p>(3) 学生による地域課題解決策の企画・提案 今年度、当課では(株)リクルートの実施する「WOWBASE」プログラムに参加した。このプログラムは様々な課題を抱える地域に学生が訪問し、若者視点で課題解決策を立案するという内容のもので、木曾地域では「木曾地域の若年層ファンを増やし、将来的な関係人口を増加させるには？」をテーマに、実際に20名ほどの学生が木曾地域を訪れ、4つのチームに分かれて地域の課題解決策を検討し、最終的にそれぞれのチームが課題解決に向けた企画の立案、発表を行った。</p> <p>これらの企画には「ゲームから始まる地域貢献～すぐろくボランティア～」といった、町村の枠を超えた観光振興や関係人口の創出につながるアイデアもあったが、発表がリクルート九段下オフィス(東京都)で実施されたため、地域の観光担当者等がこの発表を聴くことができなかった。</p> <p>学生たちに今一度木曾地域へ訪れてもらい、当地域への関心を高めてもらうとともに、12月14日開催予定の人口減少に係る郡民との意見交換会の前段の時間を活用し、地域の観光担当者等の多様な人が集まる場において改めて企画を発表してもらい、学生のアイデアを広域的な観光振興事業へ組み込んでいくとともに、学生のアイデアを事業化したいという地域の者との顔つなぎを行った。</p>			
		事業期間	令和6年5月		～
費事業	(単位:円)				
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考	
	木曾地域観光政策研究会	研究会の開催	310,010	謝金・費用弁償305,360円、需用費4,650円	
	インバウンド講演会	講演会の開催	23,058	需用費1,950円、使用料21,108円	
	学生による地域課題解決策の企画・提案	学生による地域課題解決策の企画・提案	167,160	学生5人分	
	合計		500,228		
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況
	講演会の参加者数		50名以上	100名	○ 達成
	広域観光アクションプランの作成		1件	0件	● 一部達成
	令和7年度における広域観光施策提案		1件	1件	○ 未達成
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> 「木曾地域観光政策研究会」、「インバウンド講演会」及び「学生による地域課題解決策の企画・提案等」の取組により、先進事例や多様なアイデアを町村観光担当者等と共有するとともに広域観光のメリットや木曾地域が広域的に連携して取り組むべき課題等を洗い出すことができたが、アクションプランの作成までには至らなかった。 なお、インバウンド講演会は、参加者が100名にのぼるなど、地域観光関係の高い関心を集める講演会となった。講師からはロングトレイルを意識した道づく等も提案があり、その後の日本ロングトレイル協会関係者による講演会や令和7年度の広域観光施策提案である「木曾路歩行ルート等の整備事業」(広域連携推進事業)に発展させることができた。 				
今後の方向性	観光担当者会議等において、町村観光担当者等とともに広域観光アクションプランを作成していく。				